

平成23年度事業報告

1 研究テーマ

酒造用原料米の酒造適性に関する研究

2 研究の現況・進捗状況

(1) 概要

酒米研究会は、原料米の酒造適性を総合的に研究すること及び当該酒造期に使用される原料米の性質をできるだけ早期に把握し、それぞれの原料米に適した酒造管理を行えるようにすることを目的としている。

主な活動は、酒米研究会総会及び酒米懇談会の開催並びに原料米の全国統一分析である。また、本会は酒類製造技術者のみならず、育種・栽培関係者、米に関する研究者等、広く酒米に関心を持つ者も会員として受け入れている。現在の会員構成は、266名の個人と5機関から成っている。

酒米懇談会(第35回、平成23年9月21日開催)においては、(2)口に掲げるように、5名の講師先生に、様々な観点から話題提供をお願いし、活発な意見交換がなされ、参加者にとって大きな収穫になった。

原料米の全国統一分析は、22年度産米について例年どおり行い、80品種、240点の原料米の分析値及び予測される性質について、(3)刊行物の発行等に掲げる文書により関係者に報告した。

平成23年度産米については、日本酒造組合中央会と酒類総合研究所が実施する早期(0次)酒造適性分析及び放射能分析のための試料として、酒類総合研究所に試料提供した。日本酒造組合中央会と酒類総合研究所で実施された0次分析の結果について、詳細な解析を行い本年度の原料米の酒造適性情報として12月1日付で各支部に報告した。また、各支部において分析が終了した結果について取りまとめ、第1次の速報として12月12日付で関係者に報告した。

(2) 研究会開催等

イ 平成23年度酒米研究会総会、第37回酒米研究会

① 開催月日 平成23年5月25日(火)

② 開催場所 東広島市西条西本町28番6号
東広島市市民文化センター

③ 配布資料:平成22年度事業報告、平成22年度決算及び23年度予算案、
平成22年度産米の分析結果及び平成23年度産米の分析計画等

ロ 第35回酒米懇談会

① 開催月日 平成23年9月21日(水)

② 開催場所 東京都北区西ヶ原1-23-3 滝野川会館 小ホール

③ 講演内容

1) 「水浸裂傷発生原因と防止対策～白米の保存環境と水浸裂傷の関係～」

地方独立行政法人岩手県工業技術センター 佐藤稔英 先生

2) 「酒造好適米山田錦のテロワールとクlimaについて」

株式会社本田商店 本田武義 先生

3) 「酒かすに秘められた驚きの健康効果」

ヤエガキ醱酵技研株式会社 渡辺敏郎 先生

4) 「登熟期の高温による米粒の品質低下と深水栽培を中心とした対策技術」

独)農研機構・中央農業総合研究センター 千葉雅大 先生

5) 「放射性物質の土壌・作物汚染の実態と対策」

独)農業環境技術研究所 谷山一郎 先生

④ 出席者45名

(3) 刊行物の発行等

- ・第35回酒米懇談会要旨集（平成23年10月）
- ・平成22年度酒造用原料米全国統一分析結果（平成23年10月）
- ・平成23年度早期酒造用原料米全国統一分析結果（0次）（平成23年12月1日）
- ・平成23年度酒造用原料米全国統一分析結果（1次）（平成23年12月予定）

(4) 研究連絡活動等

(4-1)原料米全国統一分析

イ 研究会支部の状況

原料米全国統一分析に参加しているグループ数は、平成23年11月末現在で、試料の採取を依頼している機関を含めて30機関である。

ロ 平成22年度産米の分析

平成23年1月～3月の間に、前年から引続き平成22年度産米の分析を行い、80品種240点についての分析結果を集計し、平成23年10月6日に日本酒造組合中央会 会長及び分析を担当した各支部に報告した。

ハ 平成23年度産米の分析

①早期分析(0次分析)及び放射能分析

平成23年度産米の早期酒造適性分析及び放射能分析のための試料を酒類総合研究所に提供した(放射能分析のみの試料:35点、早期酒造適性分析の試料:68点)。日本酒造組合中央会と酒類総合研究所との共同研究により実施された酒造適性分析のデータ及び各支部からの造り初期の酒造概況、気象・収穫に関するデータを詳細に解析し、平成23年産米の性質の早期予測(0次)として平成23年12月1日付で関係者及び各支部に報告した。あわせて、放射能分析の結果についても各支部に報告した。

②1次分析

平成23年度産米については、12月初めまでに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次分析結果と合わせ平成23年度産原料米の性質を予報し、平成23年12月中旬までに関係者及び各支部に報告した。

③2次分析

2次分析については現在継続中である。

(4-2) ホームページ

酒米研究会ホームページ(<http://www.sakamai.jp/>)において、平成23年度の酒米分析のデータ及び結果概要を加え更新し、会員間で有効に活用された。